◇ 善い授受作用の為に ◇

Ⅰ. 何をどうすることが 「善い」 ことなのか？

自分にとって善いこと、悪いこと ×

（この発想こそ、自己中であり、悪 ）

善 ＝ 四位基台を完成すること

＝ 主体と対象、二人が一つになること

（参考文献8）

∴「私とあなた、二人が一つとなるために、私はどうするべきか？」という動機が重要

Ⅱ. 原理から見た注意事項（心がけ）

● 二性性相の相対的関係から見て

①性相が形状となって現れる

・意思疎通を阻む要因は、自分の内にある様々な思いや願望である。

②違いを認める

・相手と自分、考えが違うのが当然（同意・同情を求めるべきではない）

・自分の視野に限界(死角)あり（相手を100%理解するのは無理）

井の中の蛙、大海を知らず

無知の知

・人に自分を100%理解してほしいというのは、過分な欲望（神様には可能）

・主人意識をもって（プラス思考）

〇〇がないので、できない
〇〇があったら、できる
××があるので、できない
××がなかったら、できる

という責任転嫁はしない

「なんで・・・？」ではなく「どうしたら・・・」と考える

③違いを楽しむ（二人で一つ）

・話し手のときは質問を多用

自己主張ではない！

「わたしメッセージ」

（参考文献11～15）

（話し手のときには 参照）

・聞き手のときは違いを探る

まずは受け入れることから

（聞き手になるとき具体例 参照）

④神様の心情を中心に、神様とともに

・互いの心が通じることが大事！

・愛という字は、真中に心を受けると書く

・自分の事情や相手の事情を中心とするのではない。

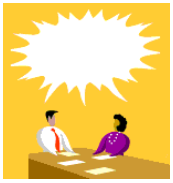
・自分も相手も、そしてその関係そのものが神様の心情を中心としたものに！

・神様の心情を共に味わいながら喜ぶ生活

あなたが神様の立場だったら・・・

対立 ◇ どうしたものか・・・

互いに認め、受け入れれば・・・



一つになれて善かった！

◇ 話し手のときには ◇

言葉が伝えるのは頭の中にあるイメージの断片。相手の言葉から相手の意図を100%知ることはできない。いま言葉でやりとりしているのは全体のどの部分である

同じ言葉から思い描くイメージは人によって千差万別。わたしはあなたの言葉をこう解釈しましたと確認し、相手にもこちらの発言を確認してもらおう。

①事実と解釈を混同しないこと

何かを人に伝えるとき、見たままの事実に自分なりの解釈を織り交ぜてしまいがち

↓

実際に見聞きしたことだけに限定して言葉にすること

②会話の途中で、互いが抱いているイメージを比較すること

∵ 会話とは本来、食い違いの連続

相手の言葉に対する解釈をフィードバック

その際、相手が使った言葉を使うのではなく、「私はこんなふうに受け止めた」と説明することが重要

※相手の言っていることを自分が理解しているという思い込みは捨てること！

③会話で質問する習慣をつけよう

相手に何かを伝えたいときには、ただ自分の思いを言葉にするだけでは不十分である。私の考えをあなたはどう思いますか、と反応を見る。質問は相手の思考に刺激を与えるものなのである。

≪質問は、相手に対する要求≫

● 具体的なものと抽象的なものがある

具体的な質問

＝特定の事実を尋ねるもので、回答の範囲はかなり絞られる

＝両者の考えを比較検討し、コンセプトにずれがないことを確認する。

＝相手の立場を明確にする

抽象的な質問

＝相手の意見を大まかにつかめる

＝相手の考えの意外な側面を知る

＝イエスかノーでは計れない相手の思いを知る

＝相手をもっと活発に会話に参加させる

会話をスムーズに始めるには、具体的な質問からはじめるのがベスト

情報を効果的に引き出すには、抽象的な質問をすればよい

↓

相手は、答えるために能動的に考えるようになり、話が展開する

● 抽象的な質問をするための四つのコツ

1. イエスかノーでは答えられない質問をする

「なぜ？」あるいは「どのように？」を尋ねたり、説明を求める

2. 「どう思いますか？」「どうやって？」という問いかけの言葉をつける

3. キーワードを復唱して相手に返す

相手の言葉を復唱するのは、その件についてもっと知りたいというサインになる

4. 要約して返す

相手が話した内容を自分なりに要約して投げ返す